

10.1.10 専門家等へのヒアリング

現地調査及び予測評価の結果について、専門家等へのヒアリングを実施した。ヒアリング結果は、表 10.1.10-1 に示すとおりである。

表 10.1.10-1(1) 専門家へのヒアリング結果（準備書段階）

専門家の所属 (専門分野)	主な意見内容	事業者の対応
博物館学芸員 (哺乳類) ヒアリング日： 令和8年5月 26日	現地調査結果について ・本事業の影響を受けると予測されたコウモリ類について、きちんと現地調査を実施しており、データを取得できている。 環境保全措置について ・コウモリ類の保全措置として、カットイン及びフェザリングを検討されるとのことであるが、カットイン風速は5m/sが基準となってくると考える。 ・自動録音調査でしっかりデータを取得できているので、もし検討できるようであれば、事業の採算性が担保できる上限で、カットイン風速や稼働制限時期等を検討できるとよい。 ・カットインの具体的な風速については、今回の調査結果より数値を決めてよいと思う。稼働前に実施する自動録音調査の結果と比較して、問題ないか否か判断できると思う。 ・保全措置は風車毎ではなく、風車6基全体で考えたほうがよい。 事後調査について ・事後調査として、コウモリに影響がある高度での調査データを取得したほうがよい。工事期間が約3年あるということなので、稼働前に風車のナセル等に録音機材を設置し、自動録音調査を実施することを検討して欲しい。調査期間はコウモリ類が多く確認される時期（4-10月）に風車6基すべてを対象に実施できるのがよいが、工事工程との兼ね合いがあると思うので、できる範囲で構わない。少ない調査期間でも、コウモリ類に影響がある高度でデータを取得すべきである。 ・そのほか事後調査として、風車稼働後1年間の自動録音調査を実施することを検討して欲しい。死骸調査の結果とあわせることで、保全措置の効果を検証することができる。 ・事後調査として、月4回実施する死骸調査（通常調査）のほか、1回あたり5日間程度連続して実施する死骸調査（集中調査）を検討しているが、効果的であると思うため実施して欲しい。	ご意見を踏まえ、予測・評価、環境保全措置等の検討を適切に進めていく。 また、事後調査を実施する予定である。

表 10.1.10-1(2) 専門家へのヒアリング結果（準備書段階）

専門家の所属 (専門分野)	主な意見内容	事業者の対応
大学准教授 (鳥類・生態系) ヒアリング日: 令和8年5月 26日	環境影響評価について ・草地性鳥類の影響予測に、環境類型区分ごとの改変率を用いている。草地・耕作地の改変率が45%と高く出ているが、周辺に代替となる類似の環境が十分広がっていることを考えると影響は少ないと結論付けることが可能である。 希少猛禽類の環境影響評価について ・サシバの衝突確率が0.045であり、0.05未満なので20年に1度未満の発生確率といえる。一般に影響は少ないと整理できる数値であるが、周辺に繁殖ペアが少ない場合などは慎重に対応する必要がある。周辺に生息する地域個体群の有無や生息状況の観点を含めて、考察を深めたほうがよい。 ・クマタカは、今回の予測では行動圏の内部構造の改変率が最大で3%と低く見積もられているものの、その値は分母となる行動圏をどのように設定するかによって大きく変わる。今回の予測では、クマタカの行動圏はペアの境界域で明確に区切られているが、実際にはオーバーラップするので、実際の飛跡図等の一次データをもとに、影響を丁寧に検討していくことも必要である。 ・◇◇つがいの飛跡が、南側の3基の風車予定地のあたりに見られる。狩場の位置等の個別の一次データを図化し、風車付近の利用状況を記載した上で、影響を再検討するとよい。 ・イヌワシは、出現は約20例のみ、事業地南側での出現であり、行動圏の外縁部と感じられる。	ご意見を踏まえ、予測・評価、環境保全措置等の検討を適切に進めていく。 また、事後調査を実施する予定である。
水族館職員 (爬虫類・両生類) ヒアリング日: 令和8年5月 29日	環境保全措置について ・爬虫類・両生類に対する環境保全措置は問題ない考える。 ・コンクリートを使う工事を実施したとき、それを現地で洗浄したりすると、強いアルカリ性の洗浄水が流れ出てきてしまい、サンショウウオに対して悪影響を及ぼす可能性がある。もし現地でコンクリートを使った機材を洗浄しなければいけない状況が発生するようであれば、できる限りその影響が少なくなるように配慮して欲しい。	ご意見を踏まえ、予測・評価、環境保全措置等の検討を適切に進めていく。 また、強いアルカリ性の洗浄水が流れ出ないよう対策を実施する予定である。

表 10.1.10-1(3) 専門家へのヒアリング結果（準備書段階）

専門家の所属 (専門分野)	主な意見内容	事業者の対応
博物館学芸員 (昆虫類) ヒアリング日: 令和8年5月 28日	現地調査結果について ・一般種、重要種ともに多数確認できており、調査範囲全体を丁寧に調査できている。 環境影響評価について ・草地・耕作地等を主な生息環境とするナミハンミョウは、富山県で朝日町周辺と南部の地域に生息しており、対象事業実施区域及びその周辺と分布が重なっている。しかし、調査結果からみて、生息しているのは対象事業実施区域外であり、生息環境は残されるため事業による影響は小さいと考える。 ・夜間の照明について、重要種の中に光に集まる種類がいるが、ライトアップは行わず航空障害灯のみであれば大きな影響はないと思う。 環境保全措置について ・昆虫類の環境保全措置案は問題ないと考える。	ご意見を踏まえ、予測・評価、環境保全措置等の検討を適切に進めていく。 また、夜間のライトアップは行わず、航空障害灯は閃光灯等を採用する予定である。
大学准教授 (陸産貝類) ヒアリング日: 令和8年6月 3日	重要な種の記載について ・フトキセルガイモドキの生息が1個体確認されている。環境省、富山県ともレッドリスト等を選定されていないが、富山県内希産種であり、重要種に含めていただきたい。 環境影響評価について ・「生息環境である広葉樹林と針葉樹林の改変率は10%未満なので影響は小さい」と評価している。数値基準の判断が難しいが、改変を受けない地域として90%が確保されることから、生息環境への影響は極小に抑えることができると判断できる。 環境保全措置について ・確認された重要種は、改変区域にかかる確認地点があるものの、周辺にも同様の生息環境が認められることから、改変範囲を必要最小限にとどめる環境保全措置を講じることで、種とその生息環境の保全に対する影響を低減できると判断できる。	ご意見を踏まえ、予測・評価、環境保全措置等の検討を適切に進めていく。 また、ご助言により、フトキセルガイモドキを陸産貝類の重要な種として記載した。

表 10.1.10-1(4) 専門家へのヒアリング結果（準備書段階）

専門家の所属 (専門分野)	主な意見内容	事業者の対応
市役所職員 (魚類・底生動物) ヒアリング日: 令和8年5月 25日	現地調査結果の記載について ・調査結果を整理した図表について、調査地点名のみだと、どの水域（河川）で確認されているか分からないため、調査地点名だけではなく、水域（河川）の名称も一緒に記載したほうがよい。 ・調査結果を整理した図表について、その種の生活型（純淡水魚、通し回遊、周縁魚等）や産卵期（秋産卵・春産卵等）についても記載したほうがよい。例えば今回の調査で確認された重要種であるカジカは春産卵型で浮石に産卵する。濁水が流入し浮石がなくなると産卵の阻害要因になる可能性があるため、濁らせないように工事を配慮するなどの検討がしやすくなる。 重要な種について ・F1、F2、F5、F6、F7 で確認されているサワガニについて、今回の調査では確認されていないが大溝谷川流域（F9）付近にも生息している。 環境保全措置について ・魚類及び底生動物の環境保全措置は問題ない考える。	ご意見を踏まえ、水域（河川）の名称等も準備書に記載する。 また、予測・評価、環境保全措置等の検討を適切に進めていく。
元博物館学芸員（植物） ヒアリング日: 令和8年5月 27日	現地調査結果及び環境影響評価について ・植生調査結果や予測・評価の結果については特に意見はない。 環境保全措置について ・重要種の保全措置として、まず回避を検討し、回避が難しい場合に代償処置として移植を実施することとなる。移植の際は、科学的知見に基づき先行事例も参考に移植計画を検討するなど適切な対応をすること。 ・移植計画の中には、証拠標本作製し地域の博物館等に寄贈するとともに、植物園等に移植することで域外保全を図ることも含めること。 ・ハネガヤは、開けた場所を好む。別の場所に同様な環境が生じれば出現することがある。移植先で定着する可能性が低いことから、工事開始までに1年でも2年でもなるべく長く残置し、種子散布の機会を確保する配慮をするのもよい。	ご意見を踏まえ、予測・評価、環境保全措置等の検討を適切に進めていく。 また、回避または域外保全を実施する予定である。